



大人のための社会科：未来を語る  
ために / 井手英策 [ほか] 著  
有斐閣，2017.9

## 文学部 教授 荻原幸子 Sachiko Ogiwara

本書は“日本社会の将来を語り合うための共通の理解、土台のようなものを誰かが提案しなければ、いつまで経っても、実のある議論は始まらない”と“本気で考えた”著者らによって執筆されている。

たとえば経済について。GDPで表されてきた日本の経済成長は、人々の「勤労」による貯蓄が企業への設備投資や公共投資に活用されることによって生み出されてきた。しかし現在は、その土台となる所得が一貫して下落し続けているために、貯蓄や投資の増加による経済成長は見込めない。長期にわたる経済の停滞は、人々の生活の不安定化や生きづらさをもたらしている。著者らは“たとえば、GDPを増やすために勤労に耐えるような生活を送らなくてもよい新しい社会をつくることできるかもしれない”としめくくる。

たとえば政治について。多数決は私たちの意思を反映した民主的な決め方であると考えられている。しかし、選択肢が三つ以上ある場合には「票割れ」が生じて思いがけない結果になるなど、必ずしも万能ではない。著者らは“<私たち>の問題を<私たち>の力で解決するという民主主義の原義を、いまいちど振り返る必要が高まっている”としめくくる。他にも「公正」「信頼」「歴史認識」…など、むずかしそうなことが、やさしく解説されている。

同世代の「みんなで」ゆっくり読み進めながら、これからの私たちの社会について、「希望」とともに「語り合っ」てみてほしい。

